ペルソナの友

 　　　　　　　　　　　○○高等学校 三年 福岡 太郎

　なんと憂鬱な日々なのだろうか。あの日以来、私の心には大きな穴があいてしまった。

　全てのことが身体に吸収されず、まるでスポンジに水を含ませた状態で今を生きてきた。そして形だけそこに存在し、無意味に大量の酸素を消費している。無用の長物とはこのことをいうのだろう。

　しかしどんなに「大丈夫」と意地を張っても、端から見ればどこかおぼつかないのが分かるらしい。自分では気がつかないが他人には分かる、よくあることだ。表面的な大丈夫なんて、きっと、「僕を気にしてください」と言っているようなものなのだ。

 見　本

（次ページより入力してください）

（タイトルは12ポイントにしてください）